

令和6年度第2回教育課程編成委員会 議事録

日 時：令和7年3月17日(月)11時00分～12時00分

場 所：多摩リハビリテーション学院専門学校 学院ホール 201 教室

教育課程編成委員：林義巳学院長、岩戸徹副学院長兼教務部長、(作業療法学科) 清水誠学科長・中村晃一主任・横濱秀征副主任・鎌田小百合副主任、(理学療法学科) 佐藤譲司学科長・成塚修一主任・西井琢馬副主任、(言語聴覚学科) 木村欣司学科長・西片裕主任、(介護福祉学科) 鈴木健二郎学科長・竹内克主任、黒田英寿事務長(青梅商工会議所常議員)、景山雄介広報課長、師岡静枝情報システム課長、大堀隆二氏(社会福祉法人一石会統括施設長、青梅商工会議所常議員)、鈴木康雄氏(医療法人社団和風会リハビリテーション部長・PT)、人見太一氏(杏林大学)、池田健祐氏(所沢リハビリテーション病院リハビリテーション部技士長・OT)、赤松栄晃氏(所沢リハビリテーション病院リハビリテーション部課長・ST)、浦島秀之氏(一般社団法人国際高齢者支援協会代表・CW)、委員 22 名

記

1. 報告事項

1) 各学科から令和6年度報告(各学科長)-令和7年3月時点-

(1) 卒業者数、国家試験結果

(2) 入学者数(令和7年度入学予定者数)、進級者数、留年者数、退学者数、休学者数

(3) 講義・臨床実習の学生状況

(4) カリキュラム編成について

2) 講義・実習の協力要請について(岩戸副学院長兼教務部長)

3) 東京都私学財団私立専修学校教育環境整備費助成金事業ならびに FD 研修について(林学院長)

(1) 東京都私学財団私立専修学校教育環境整備費助成金事業について

(2) FD 研修について

2. 意見交換・その他

・外部委員からご意見・ご提案等

以上

1. 報告事項

1) 各学科から令和6年度報告(各学科長)-令和7年3月時点-

【理学療法学科】

(1) 卒業者数、国家試験結果

卒業者数 40 名 (内留年者 4 名) 卒業率 85.7%、国家試験結果自己採点合格 39 名 (自己採点合格率 97.5%)

(2) 入学者 (令和7年度入学予定者数)、進級者数・復学者数・留年者数・退学者数

入学者数 44 名

進級者数、復学者数、留年者数、退学者数、休学者数

1 学年：39 名 (進級 39 名、復学 0 名、留年 0 名、退学 0 名、休学 0 名)

2 学年：42 名 (進級 41 名、復学 0 名、留年 0 名、退学 1 名※、休学 0 名) ※進路変更

3 学年：41 名 (卒業 40 名、復学 0 名、留年 1 名、退学 0 名、休学 0 名) 令和7年3月8日現在

(3) 講義・臨床実習の学生状況

①1 年生／見学実習 (1 週間×1)

対象学生：41 名 (全て学外実習)

学外実習の内容：地域リハビリテーション (主に通所リハビリテーション施設) に関する実習

②2 年生／評価実習 (2 週間×1)

対象学生：41 名 (全て学外実習)

学外実習の内容：診療参加型臨床実習形式で 87.8%実施、ハイブリット形式が 9.8%。従来形式が 2.4%。経験値向上目的に対象者への治療介入した学生が 51.2%。

③3 年生／総合臨床実習 (9 週間×2。前後の学内実習含む)

対象学生：37 名 (8 週間×2 は全て学外実習)

学外実習の内容：

I 期：診療参加型臨床実習形式で 81.08%実施、ハイブリット形式が 10.81%，従来形式が 8.11%

II 期：診療参加型臨床実習形式で 67.57%実施、ハイブリット形式が 24.32%，従来形式が 8.11%

(4) カリキュラム編成について

変更は特になし

【作業療法学科】

(1) 卒業者数、国家試験結果

卒業者数 42 名 (内留年者 8 名) 卒業率 80.9%、国家試験結果自己採点合格 29 名 (自己採点合格率 69%)

(2) 入学者 (令和7年度入学予定者数)、進級者数・復学者数・留年者数・退学者数、休学者数

入学者数 30 名

進級者数・復学者数・留年者数・退学者数

1 学年 31 名 (進級 25 名、復学 0 名、留年 0 名、退学 4 名、休学 1 名、除籍 1 名)

2 学年 37 名 (進級 33 名、復学 0 名、留年 0 名、退学 4 名、休学 0 名)

3 学年 44 名 (卒業 42 名、退学 1 名、休学 1 名)

(3) 講義・臨床実習の学生状況

評価法など実技の強化で補助教員 (和風会へ依頼) の回数を増やす予定。次年度の総合臨床実習の実習地数は獲得済み。

(4) カリキュラム編成 特に変更なし

【言語聴覚学科】

(1) 卒業生数、国家試験結果

卒業生 23 名（内留年者 1 名）卒業率 92%、国家試験結果自己採点合格者 21 名（合格率 91.2%）

(2) 入学者数、進級者数、留年者数、退学者数

入学者数 30 名（うち東京都委託訓練生 10 名）(3/1 現在)

1 学年 27 名（進級 24 名、留年 1 名、退学 2 名、休学 0 名）(3/1 現在)

2 学年 23 名（卒業 23 名、留年 0 名、退学 0 名、休学 0 名）

(3) 講義・臨床実習の学生状況（各学年の実習・内容）(令和 6 年度学生)

1 年：勉強熱心な学生が多く、協調性もあるが、一部特質を持った学生もおり、職業動機不振、精神的傷病、発達障がい既往など、一定数配慮が必要な方がいる。個別的な対応や環境整備など特例措置を取りながら過ごしていたが、本人よりフェードアウト要求があり、2 名退学、1 名休学となっている。残籍した学生については、先日 3 月 15 日（土）まで評価実習であった。学校生活上、問題が露出しない学生であっても個別である実習に臨むとそれぞれ課題が見え、今後の臨床実習に向けた指導の要点となった。学習の場を提供いただいた、医和風会言語聴覚士の先生には、改めて感謝申し上げる。

今後、春季休暇となるため、期間を利用して早期介入が必要な学業不振者は補講を行っていく予定である。

2 年：令和 7 年 2 月 15 日に国家試験が無事終了した。対策は集団講義と個別対応を行っていたが、個別対応の時間が年々増加している。原因として、学生の質が低下してきているところがあり、問題文の解釈から掘り下げて行うことや、設問の意図がくみ取れないなど、国家試験知識より前段階であることと推察している。2 年間のカリキュラムで、Language 部分の補強やトレーニングを行う科目設定は難しく、結論、個別で時間を掛けて対応することが今後も推測される。引き続き、学科内で連携を取りながら、臨んでいく。

臨床実習に関しては、症例担当制（従来型）と実習参加型の割合は、変化せず、症例担当制が 9 割以上を占めている。今後、本科も指定規則の変更から、実習体系の見直しも推察されるため、実習地の指導者と情報共有を引き続き行い、変化へ対応し得る体制を調整していきたい。

(4) カリキュラム編成について

①言語聴覚士養成所指導ガイドラインの改正に伴う、教育課程の変更について

厚生労働省より令和 6 年 4 月 1 日より新たなガイドラインが交付され、令和 7 年 4 月 1 日より適用されることとなった。言語聴覚士法第 33 条 5 号校である本科は 2 年過程であるため、令和 8 年 4 月 1 日より新たなガイドラインが適用となり、令和 6 年度の 1 年間、変更に向け教育課程の検討を行ってきた。

大きな教育課程の変更点として、社会環境（地域包括・リスク管理・災害対応など）の変化に応じた教育科目の追加、2 年課程である本科学生が効率的に学べる単位数（表 1）、時間数（表 2）の修正を中心に行った。

表 1 言語聴覚学科 教育課程単位数 新旧対照表

分野	新（変更後）		旧（変更前）	
	専門基礎	専門	専門基礎	専門
単位数	56	70	57	67
単位数合計	126		124	

表 2 言語聴覚学科 教育課程時間数 新旧対照表

分野	新（変更後）		旧（変更前）	
	専門基礎	専門	専門基礎	専門
時間数	900	1640	870	1545
時間数合計	2540		2415	

②その他 ガイドラインの見直しに伴う、変更について

i. 臨床実習前後の評価および振り返り：実習前後の評価→客観的臨床技能検査（OSCE）の導入
→令和8年度総合臨床実習前（7月）・後（11月末）で実施
振り返り→症例報告会および症例検討会など
→既存の症例検討会・報告会にて充当する。

ii. 実習指導者要件の変更：臨床経験5年以上かつ臨床実習指導者講習会を修了したもの。

本科開催日：第1回 令和7年7月5日（土）、6日（日）第2回 令和7年11月29日（土）、30日（日）

iii. 教員の配置数：現行4名以上 → 新規5名以上 ※令和9年4月1日より適応

iv. 学習上必要な設備：ガイドラインの改正また老朽化し不具合が生じている機器を『東京都私学財団私立専修学校教育環境整備費助成金事業』を利用し、購入する（令和10年まで継続購入）。

【介護福祉学科】

（1）卒業生数、国家試験結果

卒業生 31名（内留年者0名）卒業率 96.9%

国家試験自己採点結果：

2024年度合格者割合予測（標準6割合格基準75点）		
全体	日本人のみ	留学生のみ
71%	73%	68%
2024年度合格者割合予測（昨年度合格基準67点）		
全体	日本人のみ	留学生のみ
93.50%	100%	87%

（2）入学者（令和7年度入学予定者数）、進級者数、復学者数、留年者数、退学者数、休学者数

入学者 37名（日本人9名、留学生28名）

（モンゴル1名、ネパール1名、バングラデッシュ2名、ミャンマー17名、ベトナム7名）

進級者数・留年者数・退学者数、休学者数

1学年 26名（進級24名、留年0名、退学2名、休学0名）

2学年 31名（卒業31名、留年0名、退学0名、休学0名）

（3）講義・臨床実習の対応（各学年の学内実習者数、学外実習、内容）

①講義の対応

i. 講義

講義演習ともに対面授業にて実施し予定のカリキュラムは終了している。クラス内の日本語能力に差があるため授業の内容を標準的な理解力のある学生に合わせている。専門用語などの理解を深めるため基礎学習講座を実施した。

②臨床実習の対応

i. 1年生/介護実習 I-I（令和6年7月29日（月）～8月8日（木）：期間内5日間）対象学生24名
学外実習の内容：通所介護施設および通所リハビリテーション施設での実習

ii. 1年生/介護実習 I-II（令和7年2月12日（水）～2月21日（金）：期間内8日間）対象学生24名

学外実習の内容：小規模多機能型居宅介護施設および認知症対応型居宅介護施設での実習

iii. 1年生/介護実習 I-III（令和7年1月27日（月）～2月7日（木）：期間内9日間）対象学生24名

学外実習の内容：特別養護老人ホームおよび介護老人保健施設での実習

iv. 1年生/介護実習 I-IV（令和6年7月29日（月）～8月8日（木）：期間内5日間）対象学生24名

学外実習の内容：障害者支援施設での実習

v. 2年生/介護実習 II（令和6年7月29日（月）～9月9日（月）：期間内30日間）対象学生31名

学外実習の内容：特別養護老人ホーム、介護老人保健施設での実習

（4）カリキュラム編成

介護福祉学科のカリキュラム目標は1年次に介護福祉に関する基礎的・基本的な知識と技術を体系的に習得する。2年次に国家試験に向けて専門分野の知識を深める。介護福祉に関する課題を主体的に解決し、介護福祉の増進に寄与する創造的な能力と態度を育てる。となっている。次年度はカリキュラムの変更は無いが学生からの授業評価アンケートの結果をふまえて日本語教師を変更している。内容も日本人も学べる「介護の日本語」として留学生と日本人と一緒に学習し合えるようにしている。

2) 講義・実習の協力要請について(岩戸副学院長兼教務部長)

(1) 2025(令和7)年度法人内臨床実習に伴う依頼事項について

①臨床実習期間

学科	I 期	II 期
PT	2025(R7).5.7(水)-6.28(土)	2025(R7).7.22(火)-9.13(土)
OT	2025(R7).5.7(水)-7.5(土)	2025(R7).7.22(火)-9.20(土)
ST	2025(R7)7.7(月)~11.29(土)	

②実施時間

各施設内での規定に従う。

ただし自宅学習時間含め1日当たり規定時間(8時間)を行うこととする。

③課題

1日1時間程度の課題を各施設より課す。

④依頼人数

(総合)臨床実習	I 期		II 期		ST	
	PT	OT	PT	OT	20 日間	40 日間
多摩リハビリテーション病院	5	5	1	4	3	2
所沢中央病院	5	5	1	3	3	0
所沢リハビリテーション病院	5	5	1	4	4	1
メディケアイースト	2	2	0	2	3	0
メディケア梅の園	2	2	0	2	0	0

⑤PTOTST 春季から夏季時法人内実習バス依頼人数について

多摩リハ病院	PT			OT			総計
	3 年	2 年	1 年	3 年	2 年	1 年	
5.7(水)-6.28(土)	5	0	0	5	0	0	10
6.30(月)-7.5(土)	0	0	0	5	0	0	5
7.22(火)-7.26(土)	1	0	0	4	0	0	5
7.28(月)-29(火)	1	2	0	4	4	0	11
7.30(水)-7.31(木)	1	2	0	4	4	0	11
8.1(金)-2(土)	1	2	0	4	4	0	11
8.4(月)-5(火)	1	2	0	4	4	0	11
8.6(水)-8(金)	1	0	0	4	4	0	9
8.12(火)-16(土)	1	0	0	4	4	0	9
8.18(月)-9.13(土)	1	0	0	4	0	0	5
9.16(火)-20(土)	0	0	0	4	0	0	4

別途 ST 臨床実習 II が 2025(R7).7.7(月)-11.29(土)のうち 20 日間または 40 日間

所沢リハ病院	PT			OT			総計
	3年	2年	1年	3年	2年	1年	
時期							
5.7(水)-6.28(土)	5	0	0	5	0	0	10
6.30(月)-7.5(土)	0	0	0	5	0	0	5
7.22(火)-7.26(土)	1	0	0	4	0	0	5
7.28(月)-29(火)	1	2	0	4	4	0	11
7.30(水)-7.31(木)	1	2	0	4	4	0	11
8.1(金)-2(土)	1	2	0	4	4	0	11
8.4(月)-5(火)	1	2	0	4	4	0	11
8.6(水)-8(金)	1	0	0	4	4	0	9
8.12(火)-16(土)	1	0	4	4	4	4	17
8.18(月)-8.22(土)	1	0	4	0	0	4	9
8.18(月)-9.13(土)	1	0	0	4	0	0	5
9.16(火)-20(土)	0	0	0	4	0	0	4

別途 ST 臨床実習Ⅱが 2025(R7).7.7(月)-11.29(土)のうち 20 日間または 40 日間

(2) 2025 (令和 7) 年度学校法人和風会 臨床実習規程事項

①実習曜日について

各施設内での規程に従う。

②実習時間について

各施設内での規程に従う。

ただし自宅学習時間含め 1 日当たり規定時間 (8 時間) を行うこととする。

③実習時間の内訳について

フィードバック時間も規定時間内に含める。

④症例発表について

各施設内での規程に従う。

⑤実習場所について

各施設内における実習生の実習場所は、実習指導者が各所属長の許可を得られた場所とする。

⑥出勤について

毎朝の出勤に先立ち、実習生は必ず体温チェックを行うものとする。

出勤可否の確認は必ず実習指導者ならびに学院教員に指示を仰ぐものとする。

以下に該当する場合は原則出勤を停止するものとする。なお、医療機関を受診し、その結果を伝えること。

平熱が 36.5°C 程度までの者が 37.0°C 以上の発熱があった場合

平熱が 36.8°C 程度の者が 37.2°C 以上の発熱があった場合

上記の事由により出勤を停止した場合、解熱後 48 時間の出勤停止とする。その後体調を確認し、実習地ならびに学院の許可の後出勤再開とする。なお、この事由による出勤停止期間は公休扱いとする。出勤停止期間の補填は学院内で行うものとする。

また、同居家族が上記発熱状況であった場合は、施設ならびに学院へ報告連絡相談後対応を決定する。

(3) 感染症対策に関わる確認書 (CW 共有)

病院

病院長 殿

貴院で臨床実習を行うにあたり、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) に関わる感染症対策について、下記のとおり実習学生に説明を行うとともに、事前報告事項を確認いたしました。

①事前指導

- 手洗いや咳エチケットなどの基本的感染症対策
- 感染リスクの高い場所に行く機会を減らす
- 実習開始1週間前から、毎朝の検温および風邪様症状の確認と報告、別途必要な場合は要相談あり
- 平熱が 36.5°C程度までの者が 37.0°C以上の発熱なし
- 平熱が 36.8°C程度の者が 37.2°C以上の発熱なし
- 実習前 (実習中も含む) は不要不急な外出を控え、やむを得ない事由がある場合は担当教員へ相談する。
- 実習開始前に発熱や体調不良等が認められる場合の実習開始の保留
- 実習施設における感染症対策の取組み
- 実習施設・実習指導者の感染症対策の指示に従う
- 実習内容 (通常時と同様の実習を行うことが難しい、状況により実習の中断・中止等の可能性がある等)
- 実習中、毎朝の検温を行い、実習指導者ならびに学科教員に報告
- 実習中、発熱や体調不良等が認められる場合、実習指導者ならびに学科教員に報告

②事前報告事項

私は、貴院で臨床実習を行うにあたり、次の事項について報告いたします。

【学生本人】

2024年4月～2025年4月における海外渡航歴あり 渡航時期： 渡航先：
なし

【同居家族】

2024年4月～2025年4月における海外渡航歴あり 渡航時期： 渡航先：
なし 一人暮らしのため同居家族なし

【学生本人】

1か月以内の濃厚接触歴 あり 時期：
なし

【学生本人】

1か月以内の新型コロナ罹患歴 あり 時期：
なし

(説明および確認者)

上記内容について実習学生に説明ならびに確認を行いました。

多摩リハビリテーション学院専門学校 学科教員 氏名： 印

(実習学生)

上記内容について学科教員より事前指導を受けました。臨床実習期間前および臨床実習期間中の感染症対策を徹底いたします。また、事前報告事項の内容について相違ありません。

令和 年 月 日

多摩リハビリテーション学院専門学校 学科 年 氏名： 印

(4) 健康・行動記録 (CW 共有)

資料 4 CW共有		〔 健康・行動記録 〕	
学科		年 氏名：	
		【平熱 °C】	
月	健康チェック	体 温： °C <input type="checkbox"/> 特に症状はみられない	
		<input type="checkbox"/> 咽頭痛 <input type="checkbox"/> 咳症状 <input type="checkbox"/> 倦怠感 <input type="checkbox"/> 嗅覚異常 <input type="checkbox"/> 味覚異常	
		<input type="checkbox"/> その他 ()	
日 (月)	行動記録	午 前	午 後
月	健康チェック	体 温： °C <input type="checkbox"/> 特に症状はみられない	
		<input type="checkbox"/> 咽頭痛 <input type="checkbox"/> 咳症状 <input type="checkbox"/> 倦怠感 <input type="checkbox"/> 嗅覚異常 <input type="checkbox"/> 味覚異常	
		<input type="checkbox"/> その他 ()	
日 (火)	行動記録	午 前	午 後
月	健康チェック	体 温： °C <input type="checkbox"/> 特に症状はみられない	
		<input type="checkbox"/> 咽頭痛 <input type="checkbox"/> 咳症状 <input type="checkbox"/> 倦怠感 <input type="checkbox"/> 嗅覚異常 <input type="checkbox"/> 味覚異常	
		<input type="checkbox"/> その他 ()	
日 (水)	行動記録	午 前	午 後
月	健康チェック	体 温： °C <input type="checkbox"/> 特に症状はみられない	
		<input type="checkbox"/> 咽頭痛 <input type="checkbox"/> 咳症状 <input type="checkbox"/> 倦怠感 <input type="checkbox"/> 嗅覚異常 <input type="checkbox"/> 味覚異常	
		<input type="checkbox"/> その他 ()	
日 (木)	行動記録	午 前	午 後
月	健康チェック	体 温： °C <input type="checkbox"/> 特に症状はみられない	
		<input type="checkbox"/> 咽頭痛 <input type="checkbox"/> 咳症状 <input type="checkbox"/> 倦怠感 <input type="checkbox"/> 嗅覚異常 <input type="checkbox"/> 味覚異常	
		<input type="checkbox"/> その他 ()	
日 (金)	行動記録	午 前	午 後
月	健康チェック	体 温： °C <input type="checkbox"/> 特に症状はみられない	
		<input type="checkbox"/> 咽頭痛 <input type="checkbox"/> 咳症状 <input type="checkbox"/> 倦怠感 <input type="checkbox"/> 嗅覚異常 <input type="checkbox"/> 味覚異常	
		<input type="checkbox"/> その他 ()	
日 (土)	行動記録	午 前	午 後

(5) 2025(令和7)年度ならびに 2026(令和8)年度法人内依頼実習日程予定、ならびに依頼人数
2025(令和7)年度

【PT,OT】

①総合臨床実習(3年)

PT I期 2025(R7).5.7(月)-7.5(土) II期 7.22(月)-9.21(土)

OT I期 2025(R7).5.7(水)~7.5(土) II期 7.22(火)~9.20(土)

総合臨床実習	I期			II期			PT計	OT計	総計
	PT	OT	小計	PT	OT	小計			
多摩ハ病院	5	5	10	1	4	5	6	9	15
所沢中央病院	5	5	10	1	3	4	6	8	14
所沢ハ病院	5	5	10	1	4	5	6	9	15
メイケアイースト	2	2	4	0	2	2	2	4	7
メイケア梅の園	2	2	4	0	2	2	2	4	6
計	19	19	38	3	15	18	22	34	56

②検査測定実習(=OT:評価実習I)(2年)

PT: I期 2025(R7).7.28(月)-29(火), II期 7.30(水)-7.31(木), III期 8.1(金)-2(土), IV期 8.4(月)-5(火)

OT: I期 2025(R7).7.28(月)~8.1(金), II期 8.4(月)~8.8(金), III期 8.12(火)~8.16(土)

検査測定実習	PT(2日間×4)				OT(5日間×3)		
	7.28-29	7.30-7.31	8.1-8.2	8.4-8.5	7.28-8.1	8.4-8.8	8.12-8.16
多摩ハ病院	2	2	2	2	4	4	4
所沢中央病院	3	2	2	2	4	4	4
所沢ハ病院	2	2	2	2	4	4	4
メイケアイースト	3	2	2	2	1	1	1
メイケア梅の園	2	2	2	2	1	1	1
計	12	10	10	10	14	14	14

③見学実習(1年)前期 2025(R7).8.12(火)~8.16(土) 後期 2025(R7).8.18(月)~8.22(金)

見学実習	前期			後期			PT計	OT計	総計
	PT	OT	小計	PT	OT	小計			
多摩ハ病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0
所沢中央病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0
所沢ハ病院	4	4	8	4	4	8	8	8	16
メイケアイースト	0	4	4	4	4	8	4	8	12
メイケア梅の園	2	4	6	2	4	6	4	8	12
計	6	12	18	10	12	22	16	24	40

④評価実習(OT 評価実習Ⅱ) (2年)

PT:前期 2026(R8).1.13(月)-1.31(土) 後期:2.1(月)-2.21(土)

OT:前期 2026(R8).1.19(月)~2.7(土)

評価実習	前期			後期			PT 計	OT 計	総計
	PT	OT	計	PT	OT	計			
多摩リハ病院	5	4	9	5	0	5	10	4	14
所沢中央病院	5	4	9	5	0	5	10	4	14
所沢リハ病院	5	4	9	5	0	5	10	4	14
メイケアイースト	2	2	4	2	0	2	4	2	6
メイケア梅の園	3	2	5	3	0	3	6	2	8
計	20	16	36	20	0	20	40	16	56

【ST】

①臨床実習Ⅱ (2年)

2025(R7).7.7(月)~11.29(土)のうち 20 日間または 40 日間

臨床実習Ⅱ	20 日間	40 日間	総計
多摩リハ病院	3	2	5
所沢中央病院	3	0	3
所沢リハ病院	4	1	5
メイケアイースト	3	0	3
メイケア梅の園	0	0	0
計	13	3	16

②コミュニケーション障害演習 (1年)

I 期 2025(R7).8.4(月)~8.9(土), II 期 8.12(火)~8.16(土), III 期 8.18(月)~8.23(土)

臨床実習Ⅱ	I 期	II 期	III 期	総計
多摩リハ病院	3	3	3	9
所沢中央病院	3	3	3	9
所沢リハ病院	3	3	3	9
メイケアイースト	1	1	1	3
メイケア梅の園	0	0	0	0
計	10	10	10	30

※ 入学予定者を 30 名として計算しております。

③臨床実習Ⅰ（1年）

I期 2026(R8)2.2(月)~2.21(土) II期 2.24(火)~3.14(土)

臨床実習Ⅰ	I期	II期	総計
多摩リハ病院	3	3	6
所沢中央病院	3	3	6
所沢リハ病院	3	3	6
メイケアースト	2	2	4
メイケア梅の園	0	0	0
計	11	11	22

※ 入学予定者を30名として計算しております(8名分は外部施設)。

2026(令和8)年度

①総合臨床実習（3年）PT I期 2026(R8).5.7(木)-6.27(土) II期 7.21(火)-9.12(土)

OT I期 2026(R8).5.7(月)-7.5(土) II期 7.22(火)-9.20(土)

総合臨床実習	前期			後期			PT計	OT計	総計
	PT	OT	小計	PT	OT	小計			
多摩リハ病院	5	5	10	3	4	7	8	9	17
所沢中央病院	5	5	10	3	3	6	8	8	16
所沢リハ病院	5	5	10	3	4	7	8	9	17
メイケアースト	2	2	4	0	2	2	2	4	6
メイケア梅の園	3	2	5	1	2	3	4	4	8
計	20	19	39	10	15	25	30	34	64

②検査測定実習（2年）

PT: I期 2026(R8).7.27(月)-28(火), II期 7.29(水)-30(木), III期 7.31(木)-8.1(土), IV期 8.3(月)-4(火)

OT: I期 2026(R8)7.27(月)-8.1(土), II期 8.3(月)-8.8(土), III期 8.10(月)-8.15(土)

検査測定実習	PT(2日間×4)				OT(5日間×3)		
	7.27-28	7.29-30	7.31-8.1	8.3-8.4	7.27-8.1	8.3-8.8	8.10-8.15
多摩リハ病院	2	2	2	2	4	4	4
所沢中央病院	3	3	2	2	4	4	4
所沢リハ病院	2	2	2	2	4	4	4
メイケアースト	3	3	2	2	1	1	1
メイケア梅の園	2	2	2	2	1	1	1
計	12	12	10	10	14	14	14

③見学実習(1年) 前期 2026(R8).8.10(月)-15(土) 後期 8.17(月)-21(金)

見学実習	前期			後期			PT 計	OT 計	総計
	PT	OT	小計	PT	OT	小計			
多摩ハ病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0
所沢中央病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0
所沢ハ病院	4	4	8	4	4	8	8	8	16
メイケアイースト	0	4	4	4	4	8	4	8	12
メイケア梅の園	2	4	6	2	4	6	4	8	12
計	6	12	18	10	12	22	16	24	40

④評価実習(2年) PT:前期 2027(R9).1.12(火)-1.30(土) 後期:2.1(月)-2.20(土)

OT:前期 R7.1.18(月)-2.6(土)

評価実習	前期			後期			PT 計	OT 計	総計
	PT	OT	計	PT	OT	計			
多摩ハ病院	5	4	9	5	0	5	10	4	14
所沢中央病院	5	4	9	5	0	5	10	4	14
所沢ハ病院	5	4	9	5	0	5	10	4	14
メイケアイースト	2	2	4	2	0	2	4	2	6
メイケア梅の園	3	2	5	3	0	3	6	2	8
計	20	16	36	20	0	20	40	16	56

(6) 2025(令和7)年度法人授業依頼予定

PT 学科

依頼施設名	依頼講師名	継続/ 新規	依頼科目名	学年	前期/ 後期	依頼コマ数
	補助講師 2 名	継続	理学療法評価法 I	2	前期	3 コマ×14 回
	補助講師 5 名	継続	総合臨床実習前実技試験	3		6 時間×1 回
所沢リハ病院		継続	神経内科学	2		1 コマ×15 回
所沢中央病院	講師 2 名	新規	運動器疾患患者への PT 治療学 I	2		2 コマ×6 回 2 コマ×7 回
多摩リハ病院 所沢中央病院	講師 2 名	継続	臨床運動学	2	後期	2 コマ×4 回 2 コマ×4 回
各施設	補助講師 5 名	継続	評価実習前実技試験	2		6 時間×1 回
	補助講師 2 名	継続	検査測定法	1		3 コマ×13 回
所沢中央病院		継続	内部疾患患者への PT 治療学	2		2 コマ×2 回
所沢リハ病院		継続	神経疾患患者への PT 治療学	2		2 コマ×15 回
		継続	基礎分野演習	3		2 コマ×1 回
		継続	専門分野演習	3		2 コマ×4 回
		継続	総合分野演習	3		2 コマ×3 回

OT 学科

依頼施設名	依頼講師名	継続/ 新規	依頼科目名	学年	前期/ 後期	依頼コマ数
所沢リハ病院		継続	神経内科学	2	前期	1 コマ×15 回
多摩リハ病院	補助講師 1 名	新規	作業療法評価法 II	2		2 コマ×7 回
多摩リハ病院	1 名	継続	作業療法管理学 I	1	後期	1 コマ×2 回
千ヶ瀬ホーム		継続	義肢装具学	2		1 コマ×15 回
所沢リハ病院	補助講師 1 名	継続	作業療法評価法 I	1		2 コマ×7 回

ST 学科

依頼施設名	依頼講師名	継続/ 新規	依頼科目名	学 年	前期/ 後期	依頼コマ数
所沢リハ病院		継続	発声発語・嚥下障害学IX (ケーススタディ)	2	前期	1 コマ×7 回

※ 依頼講師の都合が合わない場合は、他の ST を希望します。

2025(令和7)年度法人臨床訪問予定

学科名	教員名	希望施設名	内容	時期、回数等
PT	成塚修一先生	多摩リハ病院	法人臨床,実習時指導	月 1 回
	小嶋陽香先生	所沢中央病院	法人臨床,実習時指導	月 1~2 回
OT	岩田一鷹先生	特になし	法人臨床,実習時指導	月 1 回
ST	なし			

(7) CW 学科実習法人依頼人数

①2025 (令和7) 年度

i. 介護実習 I-I (1年)

R7.7.28 (月) ~8.1 (金) (5日間) および 8.4(月) ~8.8 (金) (5日間)

介護実習 I-I	5日間	5日間	総計
デイケアセンターウィンド	3	3	6
デイサービスセンターパーク	3	3	6
計	6	6	12

ii. 介護実習 I-III (1年)

R8.1.19(月) -1.29 (木) (内9日間)

介護実習 I-III	9日間	総計
メディケア梅の園	3	3
計	3	3

iii. 介護実習 II (2年)

R7.7.28 (月) -9.9 (火) (内30日間)

介護実習 II	30日間	総計
メディケア梅の園	3	3
計	3	3

②2026 (令和8) 年度

上記令和7年度と同時期同人数で依頼予定

3) 東京都私学財団私立専修学校教育環境整備費助成金事業ならびに FD 研修について(林学院長)

(1) 東京都私学財団私立専修学校教育環境整備費助成金事業について

①2024 年度

i. 言語検査室整備一式(人工内耳マッピングシステム、耳音響放射検査装置、補聴器特性測定装置、フレンチ
ェル眼鏡、舌圧測定器、騒音計)

ii. 対象事業承認額 7,108,049 円、受領済額 3,295,000 円

②前年度 (2023 年度)

i. 運動器障害の治療機械器具整備一式(電気治療器、低周波治療器、超音波治療器、過流浴装置、自転車エル
ゴメーター、トレッドミル)

ii. 研究及び教育用図書等整備(言語聴覚学科：高次脳機能検査、知能検査等 10 種)

iii. 対象事業承認額 9,514,230 円、受領済額 4,757,000 円

(2) FD 研修について

①テーマ「高校の教育を知る」、日時：7月25日(木)15:30~16:30、参加者 22 人

講師：聖パウロ学園高等学校 保健体育科 阿部勇先生

内容：学生指導であった事例、通信制高校の生徒像と指導の工夫について、合理的配慮

②テーマ「特別支援教育の実際」、日時：12月24日(火)15:10分~16:30、参加者 22 名

講師：羽村特別支援学校 特別支援教育コーディネーター 佐治信一郎先生

内容：最近の特別支援学校・支援学級・通級の状況、合理的配慮、学習支援 (ICT) 等

※合理的配慮…「改正障害者差別解消法」により、2024 年 4 月 1 日から私立の学校や企業等事業者にも、合理的配慮が【法的】義務となる。○算数の時間に計算機の使用はありますか？なしか？

※令和 6 年 12 月 1 日 朝日新聞「公立高校 定員割れでも不合格 総合的判断・障害ある受験生『差別』」

③テーマ「通信制高校の現状と工夫」、日時：12月25日(水)15:10分~16:30、参加者 23 名

講師：飛鳥未来きずな高校立川キャンパス長 横山耕太先生 (立川 710 名、全国 1 万名)

内容：取り組み、出席確認システム、ICT の利用等

i. 話しかけることができない学生たち：身近な写真を掲示した職員紹介、話のきっかけ

ii. 職員室に入れたい学生たち：入りやすい職員室、職員室へのドアを開放

iii. 集団生活に疲れる学生たち：一人になれるスペースづくり、壁向きの机と椅子

iv. 卒業式にでない学生たち：イメージできないことが影響、写真で視覚的に見せる工夫

v. グループで話し合いのできない学生たち：段階付けが必要、アプリ Kahoot!

2. 意見交換・その他

1) 外部委員からご意見・ご提案等

人見太一委員：学校が主体となり、卒業生を対象としたセミナーや研修会を定期的に開催することで、費用負担を軽減し、多くの卒業生が参加しやすい環境を作ることができると思います。最新の医療・福祉の動向、現場で役立つ実践的な技術、多職種連携のスキルアップなど、卒業生にとって有益な内容を企画するのはいかがでしょうか。また、オンラインの導入を実施することにより場所や時間に縛られず、費用対効果の高い選択肢になるかもしれません。

→現在同窓会委員の企画・運営により在校中、ならびに卒業後研修会に参加できるシステムをとっております。研修会は年に2回程度ずつ実施をしており、毎年参加者からは好評をいただいております。ご指摘をいただいている最新の医療・福祉の動向や多職種連携のスキルアップについても今後検討をしております。

オンラインの導入は実践しており、講義を公欠により休んだ場合など、オンデマンド配信も含め対応をしております。また、最終学年では国家試験対策などもオンラインで補習などを行ったりしています。実習地とのやり取りなどもオンラインを活用する場面もあります。

池田健祐委員：地域共生社会を構築する上で現場との更なる連携に期待したい。

→地域共生社会の構築において、専門学校と医療現場との連携は、地域医療の質の向上と、医療人材の育成という両面で重要な役割を担います。両者が連携を強化することで、地域住民の健康増進、医療サービスの充実、そして学生の学びの深化が期待できると考えます。医療現場での実践的な学びを通して、学生は知識や技術だけでなく、患者さんとのコミュニケーション能力やチーム医療における連携の大切さを学ぶことができると考えます。地域医療機関と連携し、現場で求められる知識や技術を教育プログラムに反映させることで、実践的な人材育成が可能になると考えます。現在、地域医療機関との連携を強化し、実習機会を増やしており、学生の即戦力を高めることが期待できます。また、医療現場の最新の知識や技術を学院の教育に反映させるために、現場の先生が学院の授業を担当いただいております。現場のニーズに合わせた教育プログラムの反映につながっていると考えております。

赤松栄晃委員：在学中に4つの専門士の連携や協業が体験・経験できるような取り組みを期待しています。

→異なる専門分野の学生と協働することは、多様な視点や考え方に触れ、視野を広げることができると思います。ひとつの課題に対して、多角的なアプローチを学ぶことで、より深い理解と解決策を見出すこともできると思います。また、実際の現場で起こりうる課題に対して、チームで協力して解決策を導き出す経験は、実践的な問題解決能力を高めることができると考えます。現在4学科合同で実習後の発表会を行ったり、PTOTでは看護学校と交流したりしております。学院長や副学院長講話時に4学科で交流する場面もあります。また、球技大会やタマ博覧会を通じ、学生間や地域との交流の場面も設けております。

2) 学院からの相談

(1) 「定員割れでも不合格」について

人見太一委員：面接試験において、アドミッションポリシーの数値化、基準を設けるべきである。

鈴木康雄委員：就職した時や臨床実習に出た時も資質が判断されるため、一定の基準を設ける必要がある。

浦島秀之委員：手のかかる学生も入学してくる。面倒を見ていた先生が退職されると学生も退学するケースがある。

大堀隆二委員：経営面もあるので、迷う場合は受け入れた方が良い。

黒田英寿委員：大学もつぶれている時代である。本校としてはブランド力を高めていくことが大切である。

→数値化は現行実行しており、継続していく。

(2) 環境設定について

浦島秀之委員：写真で職員紹介は、視覚的に見えることで親近感がわく。

大堀隆二委員：外部施設では昼休みは携帯ばかり見ていたり、外国籍の職員は「はい」と返事をしても理解していないことがあり、コミュニケーションが難しい者がいる。提示された設定は可能な限り実施すべきである。また、職員室はドアを外すなど開放的にすべきである。

→要検討とする。

(3) 授業時間 (9:30~16:30、90分) について

人見太一委員：90分のなかでグループワークを複数回設けたり、小テストを行ったりすることで対応できるのではないかと。学生主体の内容とすべきである。

赤松栄晃委員：9時開始の方が就職した時には良い。終了してからの放課後時間を確保した方が良い。

池田健祐委員：授業時間は9:00からでも10:00からでも、そこに合わせられることが重要。

鈴木康雄委員：開始時間は9時30分でも良い。90分より60分や50分が良い。時間よりも中身が大切である。

大堀隆二委員：90分授業を1日は3から4コマはきつい。留学生は収入を得るため働く時間の確保も必要である。

→90分授業のなかで各種の対応を行っていき中身を充実させる。

(4) 遠隔授業について

人見太一委員：生活リズムがつかれない学生の成績がよくない。朝一で学校に来て対面で行うのがよいが、遠隔授業も併用するのがよい。

赤松栄晃委員：入学生の募集には良いことかもしれない。

池田健祐委員：使えばよいがリテラシーの問題には注意が必要である。

鈴木康雄委員：娘もオンデマンド配信で学習している。基礎科目はZoomでも良いと思う。対面授業や遠隔授業を選択できればよい。

浦島秀之委員：試験対策や日本語教育などはZoomでも良いと思うが。

大堀隆二委員：研修では時間的に受けやすく融通が利くが。

→対面授業と遠隔授業を上手く併用していく。

(5) 生成AIの利用

人見太一委員：職員の使用はよいと思う。勤務校ではレポート課題で成績をつけることも多いので学生への使用は勧めない。

鈴木康雄委員：学校で指導ができれば。

浦島秀之委員：記録など仕事上も文章が簡素化しているのでAIでも良い。

大堀隆二委員：使っていくと思うが、教える側(教員)と聞く側(学生)で違う。どれだけその人の思考が入っているかが問題である。

黒田英寿委員：議論した方がよい。

→学生の使用も含め今後検討していく。